

平成 28 年 7 月 21 日  
戦略企画部 企画課

## 平成 29 年度重点取組について

### 1. 平成 29 年度重点取組について

#### (1) 基本的な考え方

- ・全庁を挙げて財政再建に取り組むなど、厳しい財政状況である。
- ・厳しい財政状況であるからこそ、より効果的・効率的な取組に重点的に資源配分する必要があり、重点取組の仕組みを機能させることで選択と集中を図っていく。
- ・財源が限られており、重点取組については、例年以上に、絞り込みを行う必要がある。
- ・財源については、地方創生推進交付金（新型交付金）を最大限に活用する。

#### (2) テーマ設定について

##### ア) 「人口減少への対応」

『テーマ：ポストサミットを地方創生へつなげる』

ポストサミットと地方創生の両面で、特に効果的な取組を選定する。MICE 誘致・インバウンドの拡大、食関連産業の振興、人材育成、女性の活躍の推進など、サミットのレガシーを生かし、地域の魅力向上を図り、「希望がかない選ばれる三重」としていくことで、地域の自立的、持続的な活性化を実現する。

##### イ) 社会経済情勢への変化等への対応

各部局が、社会経済情勢の変化等をふまえた課題への対応について提案を行い、より着実に課題の解決につなげる。

#### (3) 選定方法

- ・「人口減少への対応」に係るテーマに沿った取組及び「社会経済情勢の変化等への対応」に係る取組について、各部局から提案を募る。なお、提案本数には上限を設ける予定である。
- ・各部局の提案について、秋の政策協議において二役と各部局長が議論をし、その議論を踏まえて重点取組を選定する。

なお、秋の政策協議において、サマープレビューに関する議論を合わせて行うことについては、現在、総務部と調整中であり、それを含め、具体的な重点取組の提案方法や政策協議の方法などについては、7月下旬に企画担当課長会議を開催し、お知らせする予定である。

### 2. スケジュール予定

別紙 1 のとおり

経営方針策定と予算編成に向けた取組の全体スケジュール

平成28年7月21日

	経営方針	予算編成等	備考
7月上旬		・8日 経営会議	
中旬		【サマープレビュー】 各部局における総点検の開始 (～8月22日)	
下旬	・21日経営会議(重点取組等) ・担当課長会議	・21日経営会議(予算フレーム、今後の取組)	
8月上旬			
中旬			
下旬	・部局からの重点取組の提案	【サマープレビュー】 8月23日～9月上旬 財政課による聴取	・地方創生推進交付金 (新型交付金)内示見込 ・総務省概算要求
9月上旬	【秋の政策協議】① ・経営方針につなげるために 翌年度の県の取組の方向性 について議論	9月中旬 総務部内調整	・地方創生推進交付金(新型交付金)交付決定見込
中旬		・9日部長級会議(当初予算フレーム、WG最終とりまとめ)	
下旬	【秋の政策協議】② ・経営方針(案)の策定	【サマープレビュー】 二役協議  ・27日部長級会議(予算調製方針)	・議案質疑、一般質問 21日～30日
10月上旬	・4日議会(経営方針(案)を説明)	・4日議会(予算調製方針を説明)	
中旬	【秋の政策協議】③ ・予算要求までに重点取組を 選定	【サマープレビュー】 総務部意見の提示	
下旬			

# ポストサミット関連予算の概要

サミットの開催は三重にとって千載一遇のチャンスであり、これを一過性にせず、サミットの資産を次世代に継承していかねばなりません。  
⇒三重県における「ポストサミット」を、「サミットのレガシー」を三重の未来に生かすこと」と定義し、そのために具体的な取組を展開していきます。

サミット開催に向けた「オール三重」による取組は、県民の皆さんがサミットの成果を地域の発展のために生かそうとする行動や、地域をより良くしようとする行動へとつながります。そのことにより、地域の活力・魅力が高まって、観光やビジネスなどのさまざまな分野で三重が世界から選ばれるようになり、それが次代を担う若者や子どもたちの希望につながっていくという「正のスパイラル」が生まれ、地域の自立的かつ持続的な活性化が図られます。そのように、サミットのレガシーを最大限に生かし、三重の未来を持続的に発展させていくことが、「ポストサミット」の基本的な考え方です。

## サミットの「レガシー」

サミットの開催により  
地域にもたらされる  
有形無形の好影響

### ①知名度等の向上

- ・日本人の心のふるさと「三重・伊勢志摩」の知名度の向上や評価・関心の高まり
- ・県民と海外・世界との距離が縮まること 等

### ②会議自体の成果

- ・宣言、方針、共同声明等や、それらに基づく計画、取組 等

### ③地域の総合力の向上

- ・県民や地域の一体感の醸成
- ・郷土に対する愛着や誇りの高まり
- ・地域に対する理解の深化、地域のネットワークの強化
- ・地域で自らイノベーションを起こそうとする県民の行動の活発化(アクティブ・シチズンの増加)
- ・おもてなしの力の向上
- ・「ダイバーシティ※」の視点による地域の深化
- ・県民力で「安全・安心」に取り組んだ経験 等

※ダイバーシティ：国籍や人種、信仰、性別・ジェンダーの違いや年齢差、障がいの有無などの「違い」を積極的に受け入れ活用する観点から、組織や社会として人材等の多様性を生かすこと

## 具体的な取組

- ・サミットが開催されるからこそ生まれる(発展する)取組
- ・アクティブ・シチズンとしての県民の行動を促す取組
- ・サミット開催後、一定期間にわたって効果が持続する取組

(平成28年度当初 計69,402千円)  
(平成27年度補正 計215,209千円)  
※県民会議の取組を含む。

### ①人と事業を呼びこむ

(知名度等の向上を最大限に生かし、国内外の人びとと事業を呼びこむ取組)

- 【MICE誘致】 ○海外MICE誘致促進事業(27補)
- 世界経済のリーダーを呼び込む国際会議開催事業(27補)
- 【インバウンド】 ○海外誘客推進プロジェクト事業(27補)
- 三重県版バリアフリー観光促進事業(27補)
- 地域活性化(観光活性化)ファンド組成事業
- 【食の産業振興】 ○みえの農水産物の魅力総発信事業(27補)
- 「みえの食」グローバル市場獲得推進事業
- 【国際戦略】 ○グローバル創業支援事業(27補)
- 外資系企業ワンストップサービス推進事業(27補)

(平成28年度当初 計53,164千円)  
(平成27年度補正 計143,632千円)

### ②成果を発展させる

(サミットそのものの成果を引き継ぎ発展させる取組)

- 【安全・安心】 ○安全安心まちづくり事業(一部)
- 【サミットの聖地】 ○みえの農林水産「八百万サミット」開催事業(27補)
- ◆世界に開かれた魅力ある三重づくり促進プログラム事業
- 【環境】 ○みえの環境技術移転国際会議開催事業(27補)

(平成28年度当初 計3,000千円)  
(平成27年度補正 計14,690千円)

### ③次世代に継承する

(サミットを通じて高まった地域の総合力を、次世代の育成や地域の魅力向上につなげる取組)

- 【次世代育成】 ◆三重県高校生サミット開催事業
- ◆大学生・留学生との交流事業
- 【女性の活躍】 ○未来へつなぐグッドワーク・グッドライフ創造事業(当初、27補)

(平成28年度当初 計13,238千円)  
(平成27年度補正 計56,887千円)

注)事業名に◆印を付したものは、伊勢志摩サミット三重県民会議への寄附金を財源として実施する事業です。

## 伊勢志摩サミットの開催

## 持続的に発展する三重の未来へ

伊勢志摩国立公園指定70周年(平成28)、全国菓子大博覧会・三重(平成29)、三重とこわか国体・全国障害者スポーツ大会三重大会(平成33)などを経て、第63回神宮式年遷宮(平成37)山口祭(平成45遷御の儀)へ

「伊勢志摩サミットの開催後、我が国での次のサミット開催地が決定するまで」を三重県の「ポストサミット期」と捉え、長く効果が持続すると期待される取組を展開していく。